（学年）第学２年，（教科・科目）地歴・地理Ｂ　一斉学習

（単元）地図の活用と地域調査

（本時のねらい）
①国土地理院が発行する地形図の種類を理解させ，基本的な読み取り方法を学ばせる。
②新旧地形図の比較を通して，地域の土地活用の変遷について考えさせる。
③電子化された地形図とその利用について理解させる。

（ＩＣＴ活用方法）
地形図の読み取り方法を説明するために，新旧鳴門市の地形図を用いて作業させる。従来は黒板に地形図を表示することは困難であったが，電子黒板を使うことで，表示した地形図の上にポイントを書き込んだり，新旧の地形図を比較するなど，生徒の理解をより深めることができる。

（本時の展開）

時間	学習活動	指導事項	ＩＣＴ活用方法	備考
導入 ５分	・地形図について理解する。	・地形図の種類について理解させる。	・２万５千分の１と５万分の１の地形図を示し，縮尺の違い等を理解させる。	
展開 ３５分	・地形図の読み取り方法を理解する。	・等高線の読み取りや土地の利用状況などを確認させる。 ・新旧の地形図を比較しながら鳴門の土地利用の変遷を考えさせる。	・地形図を投影し，ワークシートのポイントを書き込みながら地名や高低差などに注目させ，鳴門の特徴を理解させる。 ・新旧の地図を比較し，塩田が形成された背景やその後の変遷について理解させる。	ワークシート タッチペン
まとめ ５分	・電子地形図の活用方法を考える。	・電子地形図の様々な機能を体験させる。	・実際に国土地理院のサイトから電子地形図を投影し，有効な活用方法について考えさせる。	

（ワークシート）

（１）鳴門高校に〇をつけよう。
（２）鳴門高校の裏山である「棒杭山」の標高は。
（３）この地図の縮尺はどっち？（　２万五千分の１、　５万分の１　）
（４）鳴門駅と撫養駅では直線距離でどちらが近いか。
（５）鳴門高校と妙見山の直線距離を求めなさい。
（６）鳴門高校近くに「ため池」はいくつあるか。
（７）「黒崎」「桑島」「林崎」の地名から、昔、撫養町一帯はどのような地形だったと考えられるか
（８）昭和７年の地形図を見て、鳴門ではどのような産業が盛んだったのか。
（９）水路（水尾）はどのように活用されていたのか。また現在はどのように活用しているのか。　（＊着色して比較してみよう）
(10) 里浦地区では塩田が発達しなかったのはなぜか。
(11) 旧撫養街道を着色し、気づいた点を述べなさい。

（生徒の反応と課題，改善を要する点）

実際に地形図を投射することで，地図上に生徒や教師が書き込みながら説明できるので，生徒の理解を深めるのに大いに役立った。また複数の地形図を比較したり，写真や動画などの教材を活用することで，様々な視点からアプローチできる点も魅力的である。
その一方で，作業効率を求めるあまり流れ作業となってしまい，生徒の記憶が散漫となってしまう危険性がある。常に資料やスライド数を厳選し，生徒自身による学習活動の時間を十分にとることが重要だと考える。